

EIPAユースケースWG 検討資料

2020年12月9日

XBRL JAPAN 顧問 三分一信之

三分一技術士事務所 所長

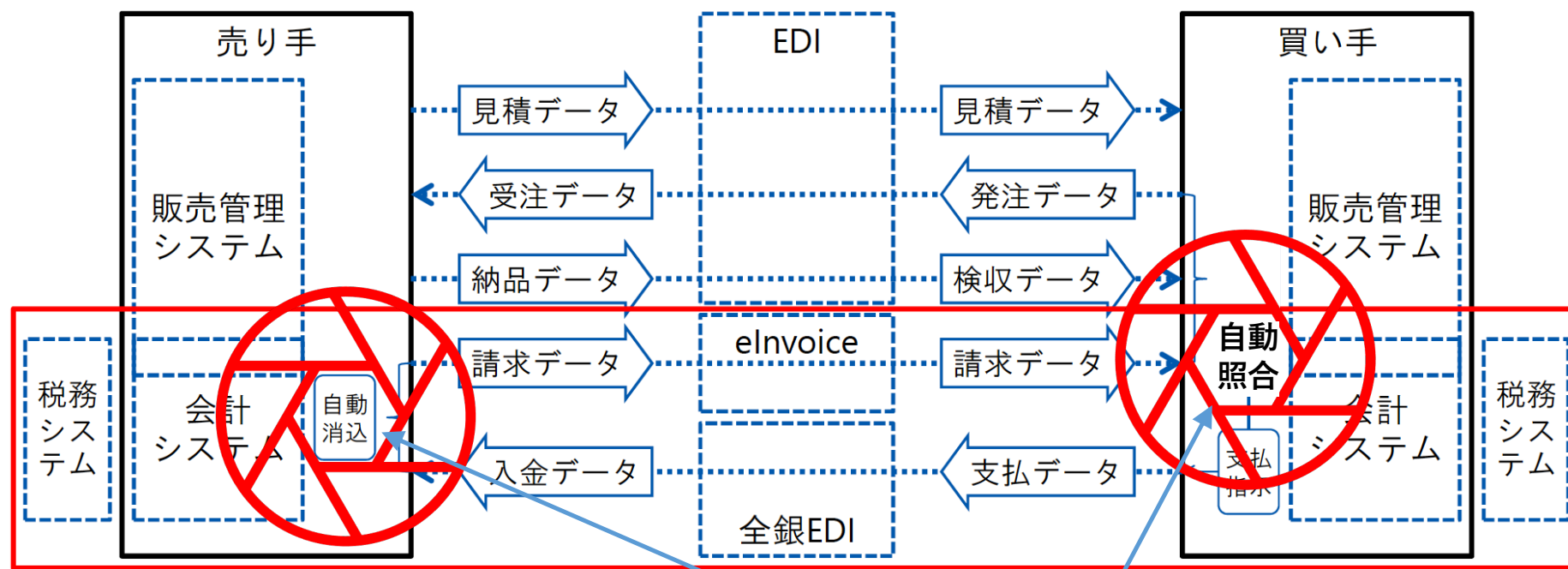
ISO/TC 295 Audit data services 日本代表委員

元 東京大学大学院 情報学環 特任教授

単なる法令改正対応ではなく、業務効率化を実現する

■ まずは電子インボイスを契機に請求～支払/入金消込業務の一気通貫を目指す

◆ 将来的には見積～受発注～請求～支払/入金消込業務のデジタルでの一気通貫を目指す



2023年10月までに実現を目指す領域

4 | Confidential

© 2020 E-Invoice Promotion

疎通テスト

買い手としては、この照合が完了しないと会計システムへ買掛データを渡せないなのでこの自動照合を赤枠内へ移動

電子インボイス推進協議会 第5回標準仕様検討会合 資料

(2020年11月10日)

三分一加筆修正

2020/12/8

XBRL Japan顧問 三分一信之

条件付きでUBL/Peppolをベースとして進める

まずは電子インボイスを契機に

請求～支払/入金消込**業務の一気通貫**を目指す

将来的には

見積～受発注～請求～支払/入金消込**業務のデジタルでの一気通貫**を目指す

しかし、電子インボイスを使用した行政の調達システムとしてOpen PEPPOLを導入するだけでは、既に商流で使用されている各業界の標準EDIや電子レシート並びに電子契約書といった多様な形式の**電子文書そのものを対象とした電子インボイス標準策定は困難**

（既存の各業界の標準EDIをOpen PEPPOLに切替えるとは思えない）

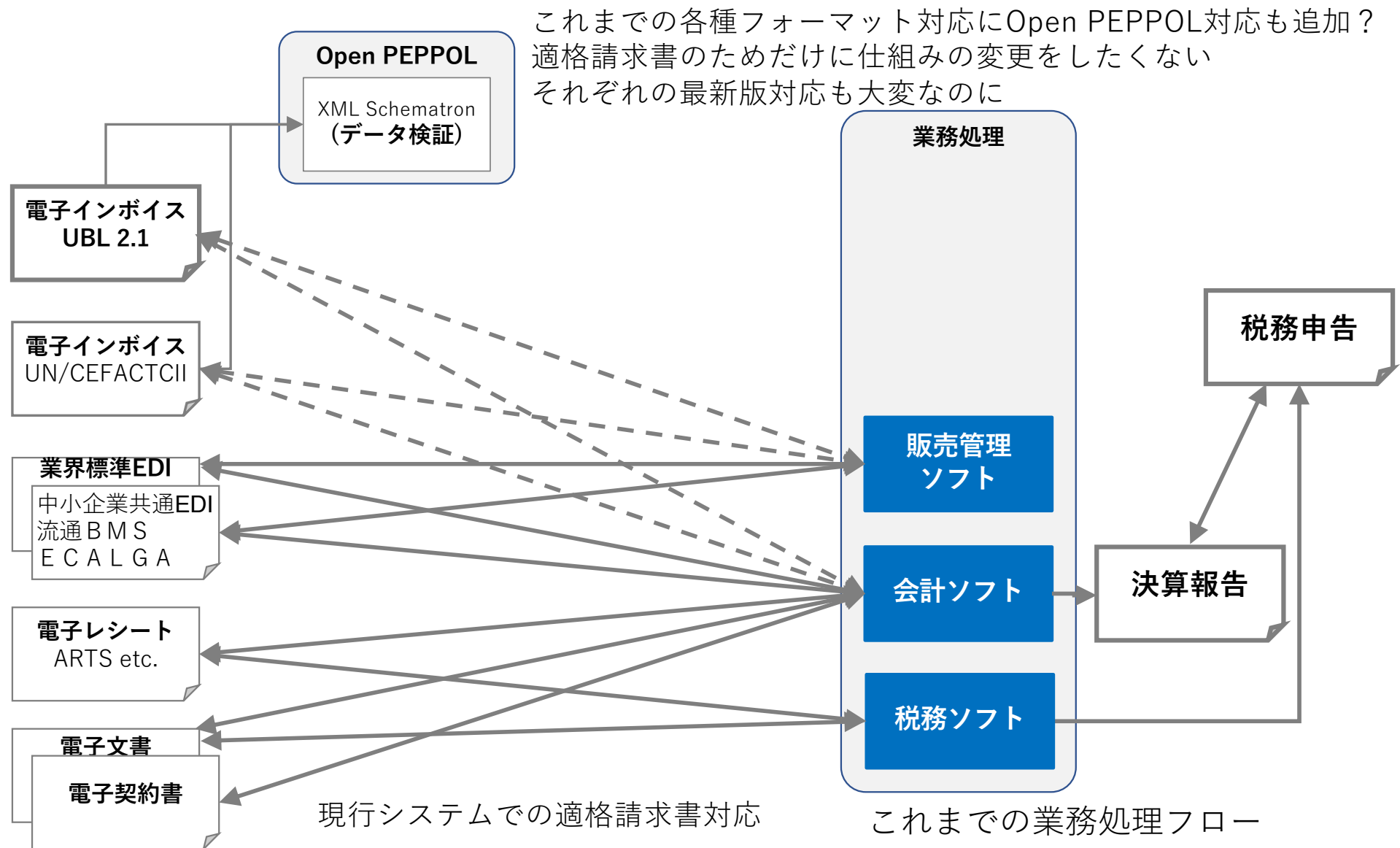
むしろ重点は、

会計システムとのインタフェースとなるデジタルデータの標準化

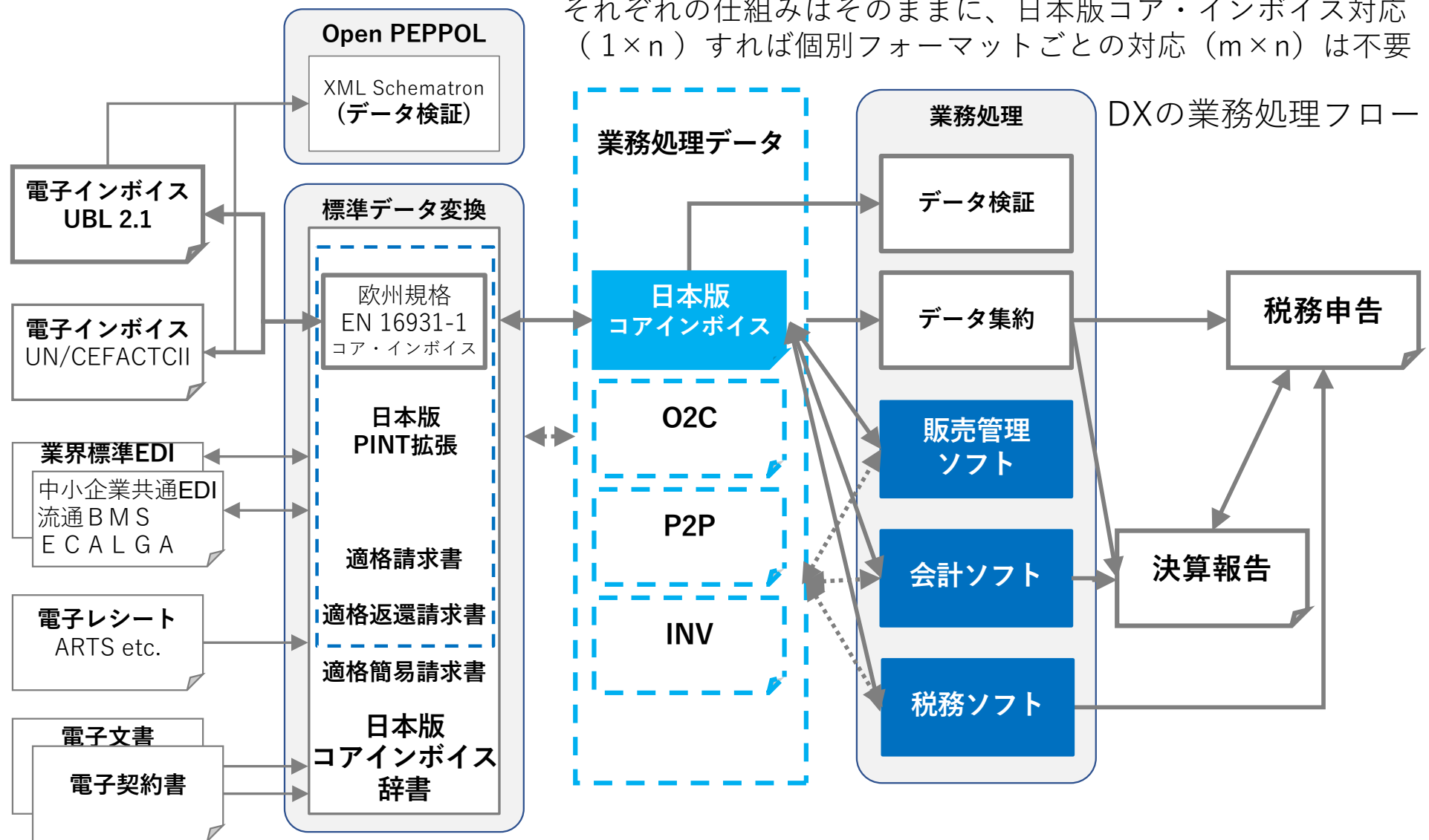
→日本版コア・インボイスの標準化

→日本対応のPEPPOL国際版（PINT）設計の前提でもある

欧州規格 EN 16931-1コア・インボイスとの比較には不可欠、

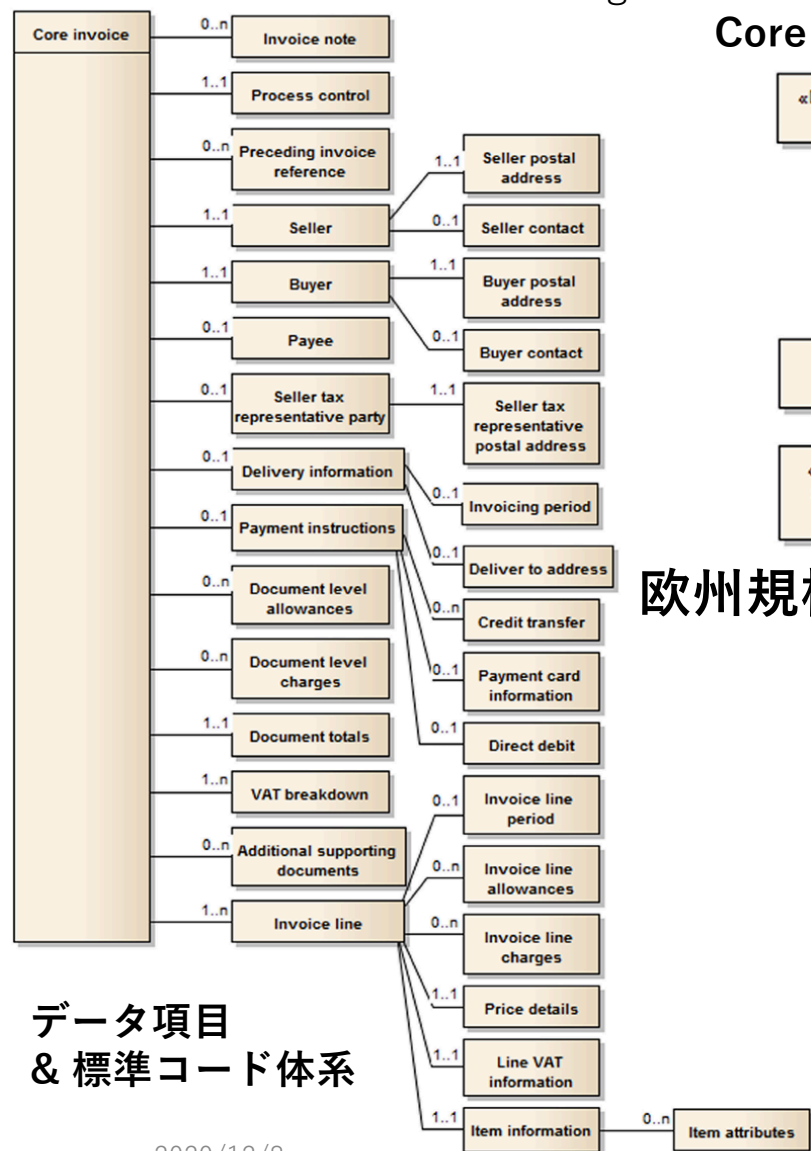


それぞれの仕組みはそのままに、日本版コア・インボイス対応（1×n）すれば個別フォーマットごとの対応（m×n）は不要



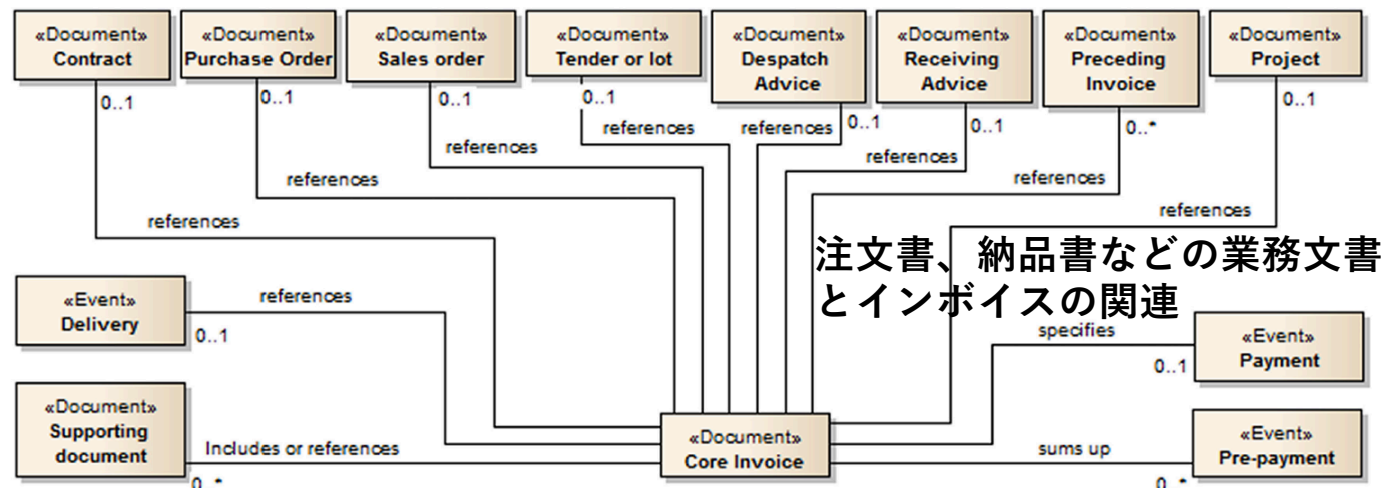
EN 16931-1 Electronic invoicing - Part 1: Semantic data model of the core elements of an electronic invoice

Core Invoice Usage specification



データ項目
& 標準コード体系

2020/12/8



注文書、納品書などの業務文書
とインボイスの関連

欧州規格 EN 16931-1 コア・インボイス

6.3 The semantic model

データ項目 & ビジネスルール

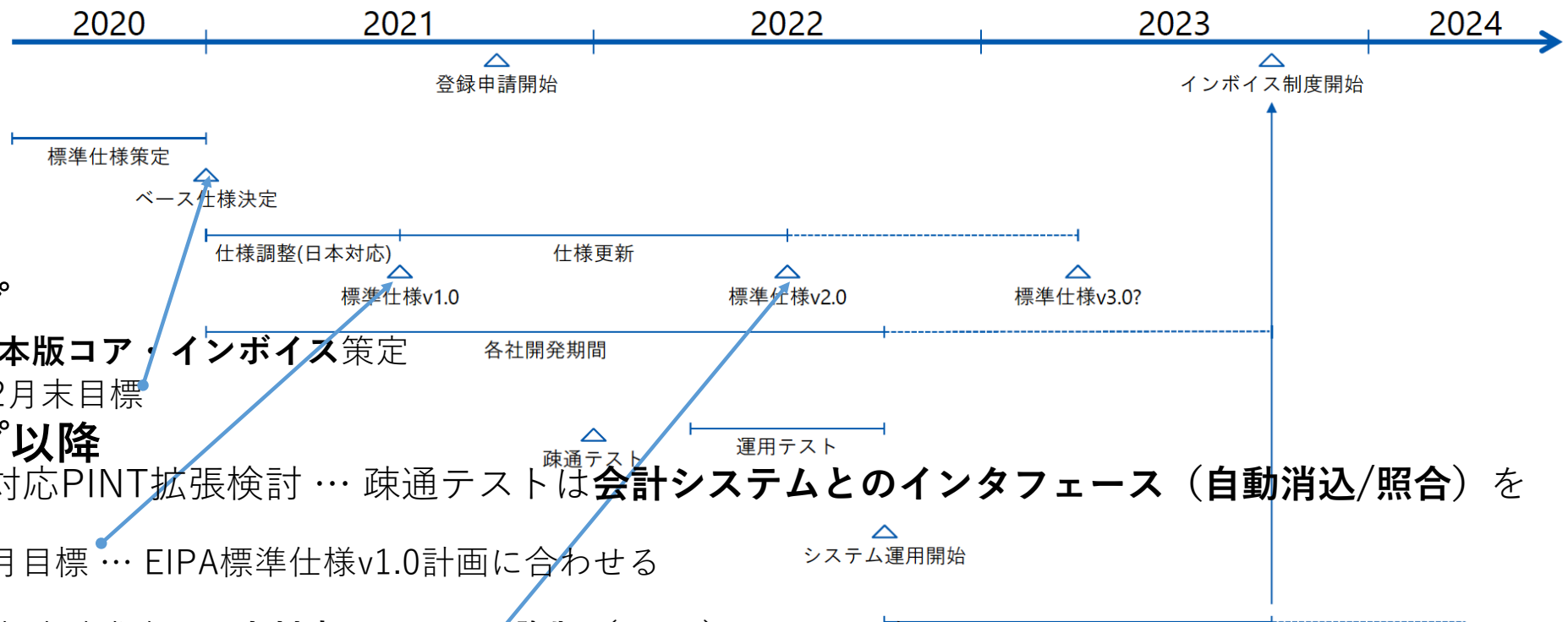
Table 2 — Semantic data model of the core elements of an electronic invoice

ID	Level	Cardinality	Business Term	Description	Usage Note	Req. ID	Semantic data type ³
BT-1	+	1..1	Invoice number	A unique identification of the Invoice.	The sequential number required in Article 226(2) of the directive 2006/112/EC [2], to uniquely identify the Invoice within the business context, time-frame, operating systems and records of the Seller. It may be based on one or more series of numbers, which may include alphanumeric characters. No identification scheme is to be used.	R56	Identifier
BT-2	+	1..1	Invoice issue date	The date when the Invoice was issued.		R56	Date
BT-3	+	1..1	Invoice type code	A code specifying the functional type of the Invoice.	Commercial invoices and credit notes are defined according the entries in UNTDID 1001 [6]. Other entries of UNTDID 1001 [6] with specific invoices or credit notes may be used if applicable.	R44	Code

XBRL Japan顧問 三合一信之

[参考] 電子インボイス普及に向けたタイムライン

電子インボイス推進協議会 第5回標準仕様検討会合 資料 (2020年11月10日)



ご提案

第1ステップ

都度請求書の日本版コア・インボイス策定
→2020年12月末目標

第2ステップ以降

月締の請求書対応PINT拡張検討…疎通テストは会計システムとのインタフェース（自動消込/照合）を確認

→2021年9月目標…EIPA標準仕様v1.0計画に合わせる

行政

- 日本版の都度請求書を日本対応PEPPOL国際版（PINT）として設計
- 電子インボイス以外の入札、発注、支払いに関係する文書も標準化+デジタル化
- 自治体と企業の取引データも標準化+デジタル化

民間

- 日本版コア・インボイスの共通仕様を業界標準EDI団体も交えて検討継続
- 日本版コア・インボイス標準化（データ項目、標準コード、会計語彙の標準化）
- 製造業のJIT、月締めの出精値引きや調整・相殺、その他日本流の商慣習を生かしたDX実現

提言

- ・ EIPAは、電子インボイスを契機に請求～支払/入金消込業務の一気通貫を目指す。そして、将来的には見積～受発注～請求～支払/入金消込**業務のデジタルでの一気通貫**を目指す。

- 中小企業も含む日本企業の**強みをさらに強化するDX**を可能にする

- ・ 行政における**デジタルファースト**（手続きのワンストップ化やデータの共有）

- ・ フォーマットの標準化の前に、**デジタルデータ辞書（コア・モデル）の標準化**

- 物理フォーマットは、技術の進歩に応じて変わるが論理モデルは不変

- **日本版コア・インボイス・モデル**

- 会計における**標準データ辞書**（標準語彙や標準コードの定義）

- ・ 具体化のための**標準データ変換**については、コア・メンバでレビューを計画